

コロナ危機と時間学

～ 新型コロナウイルス感染症と私たちの過去・現在・未来 ～

これはなに？

文系・理系を問わず、ほぼあらゆる学問が何らかの形で時間と関わり合いを持っています。物理学では時間は現象を記述する最も基本的なパラメータの一つです。地質学や考古学では地層や遺跡という形で記録された過去を読み取ることが重要な課題となります。古代の天文学は天体の運行をもとに暦を作ることがその目的でした。生物が持つリズムは生物独自の時間を作っていますし、生物としてのヒトが持つリズムと現代社会が人間に強いる時間規律との調和は文理の枠を超えた課題となります。現代の我々が持つ時間意識がどのように形成されてきたのかは社会学の課題であり、ヒトが時間を感じる仕組みは心理学や神経科学で横断的に追究されています。そもそも時間とは何か、これは哲学における長い歴史のある問題です。以上から、時間が多種多様な側面を持つことがよくわかります。山口大学時間学研究所は、様々な分野において時間に関する研究を行うと同時に、「知の交流と創造」を掲げ、多種多様な研究の切り口から時間の全体像を描き、「時間学」という学際的な学問分野として体系化をすることで、時間を統合的に理解することを目指しています。

2020年に新型コロナウイルス感染症の拡大が始まってから二年が経ちました。その間、時間学研究所では「コロナの時間学」というプロジェクトを実施しました。新型コロナウイルス感染症は、単なる新しい感染症という問題にとどまらず、私たちの生活や社会に広い範囲で大きな影響を及ぼしました。新型コロナウイルス感染症によって、何が起こって、これからどうなるのか？これまでに、いわゆるコロナ危機に関する多くの研究が行われてきました。一方、この未曾有の事態を理解するのに、単一の学問領域に立つ視点には限界があることは明らかです。時間学研究所は学問領域が広く集まることで見えてくるものがあることをよく知っています。「時間」が持つ多種多様な視点と、「知の交流と創造」を目指す「時間学」だからこそ見通せる新型コロナウイルス感染症の諸問題があるのではないだろうか。時間学研究所、そして山口大学だからこそそのユニークな学問的貢献があるのではないだろうか。「コロナの時間学」は、そのような思いから、分野・学部を問わず山口大学の研究者であれば参加できる研究プロジェクトとして企画されたものでした。

「コロナの時間学」は2021年で終了しましたが、コロナ危機はまだ過去のものにはなっていません。まだまだ多くの問題が残されていますし、コロナ危機を乗り越えた新しい社会を追求する必要があります。そこで、「コロナの時間学」を引き継ぎ、コロナ危機を乗り越えた未来のための新たな「時間学」プロジェクトを始めます。

だれが参加する？

山口大学に所属する研究者であれば、だれでも参加できます。新型コロナウイルス感染症

およびそれによって変化した(あるいはこれからの)私たちの社会・生活に関する研究課題を自分で設定し、このプロジェクトに登録してください。研究成果はウェブサイトで公開します。一人で行う研究でも複数人のグループ研究でも結構です。

どんな内容？

新型コロナウイルス感染症および、それに関連する私たちの社会・生活に関する研究であれば、どのようなものでも結構です。ただし、単なる研究の寄せ集めとしないために時間という観点や切り口を研究計画に盛り込んでください。今回はタイトルに「過去」「現在」「未来」というキーワードのどれかひとつを含むこととします。「過去と現在の比較」のように複数のキーワードを含んでいてもかまいません。

分野・学部横断プロジェクトですから、他分野との交流を積極的に行う研究や、他分野への波及効果を狙った研究を優先的に採用していく予定です。研究計画そのものが、必ずしも他分野との交流を行うことや波及効果を狙ったものであることを求めるものではありませんが、様々な分野の研究者が集い交流することでコロナ危機諸問題の解決を目指すという本プロジェクトの目的に貢献する研究計画を期待します。参加者間の有機的な交流を促すために、プロジェクト実施期間内に二ヶ月に一度の頻度で研究会を開催し、プロジェクト参加者に各自の研究について発表していただく予定です。

例えばどんな研究？

参考までに、前回「コロナの時間学」の採択課題の一部を例として挙げておきますが、これらにとらわれる必要はありません。過去と現状を理解するための研究に加え、コロナ危機を乗り越えた社会を追求するための未来志向の研究なども歓迎します。

- ・ 新型コロナと水害の複合災害リスクへの適応～命を守るための避難タイムラインの検討～
- ・ マルチスケール SIR モデルのネットワーク構造に着目した感染症の時間発展の解析と制御
- ・ 新型コロナウイルスに係る生活リズムの乱れの精神への影響
- ・ 環境中におけるレジオネラの生態にコロナ禍がもたらした影響の継時的解析
- ・ コロナ禍の民俗調査において流れる時間の比較——対面、電話、オンライン調査

メリットは？

少額ですが希望される方には研究費の配分も行います。また、他分野の研究に触れ、また自分の研究を他分野の人に知ってもらい、分野間の学術的交流ができる貴重な機会となります。分野間交流を通じた議論、そこで得られた知見や意見をご自身の研究に還元することで研究の促進や新しい展開が期待されます。また、普段交流することの少ない他部署の研究者と知り合うことができ、新しいネットワークの構築が期待されます。さらに、日本時間学会の年次大会で、本研究プロジェクトの成果発表の場を設けることも検討中です。

コロナ危機と時間学 プロジェクト実施要領

目的と目標

分野・学部を問わず、新型コロナウイルス感染症およびそれによって変化した(変化する)私たちの社会・生活に関連する研究を行います。新型コロナウイルス感染症に関する現状を理解するだけでなく、コロナ禍以前を改めて振り返り、そしてコロナ禍以降を見据え、新型コロナウイルス感染症が存在する世界で今後私たちはどのように生きればよいのかを提言することを目指し、山口大学としてこの問題に取り組みます。「過去・現在・未来」がキーワードです。一年間の研究を行い、参加者間で交流し、2023年11月に研究成果をまとめて公表することを目標とします。

研究課題の募集と予算配分

- ・応募方法：研究課題と必要事項を別紙の研究提案書に記入し、メール添付で窓口にお送りください。応募締切後に内容に関する審査を行い、約一週間後に審査結果を通知します。
- ・予算配分：2022年度のプロジェクト予算予定額は全体で200万円です。そこから希望者に配分します。予算配分をご希望の方は関連する事項を研究提案書に記入してください。総額が限られているため、申し訳ありませんが配分される予算額は希望通りにはならず、応募数によって変化する見込みです。2023年度も同額程度の予算を予定しています。

メール送付先： sh076@yamaguchi-u.ac.jp（時間学研究所事務室）

応募締切： 2022年9月2日（金）

実施内容と時期

時 期	内 容
2022年7月	参加者・研究提案の募集を開始
9月	募集終了。研究計画を整理して公表、予算配分の決定
10月	研究開始シンポジウムを開催
11月～2023年10月	各課題の研究を実施、研究会を二ヶ月に一度開催
11月	研究完了シンポジウムを開催
12月	研究成果をウェブサイトで公表

ウェブサイト

《時間学研究所 HP「コロナ危機と時間学」》 http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp/?page_id=3042

問い合わせ・連絡先

山口大学時間学研究所（電話：083-933-5848、メール：sh076@yamaguchi-u.ac.jp）